

取組紹介：中山間の田んぼで沢山の生き物を育む米作り

～長野市信里地区、認定 NPO 法人生態工房での取組



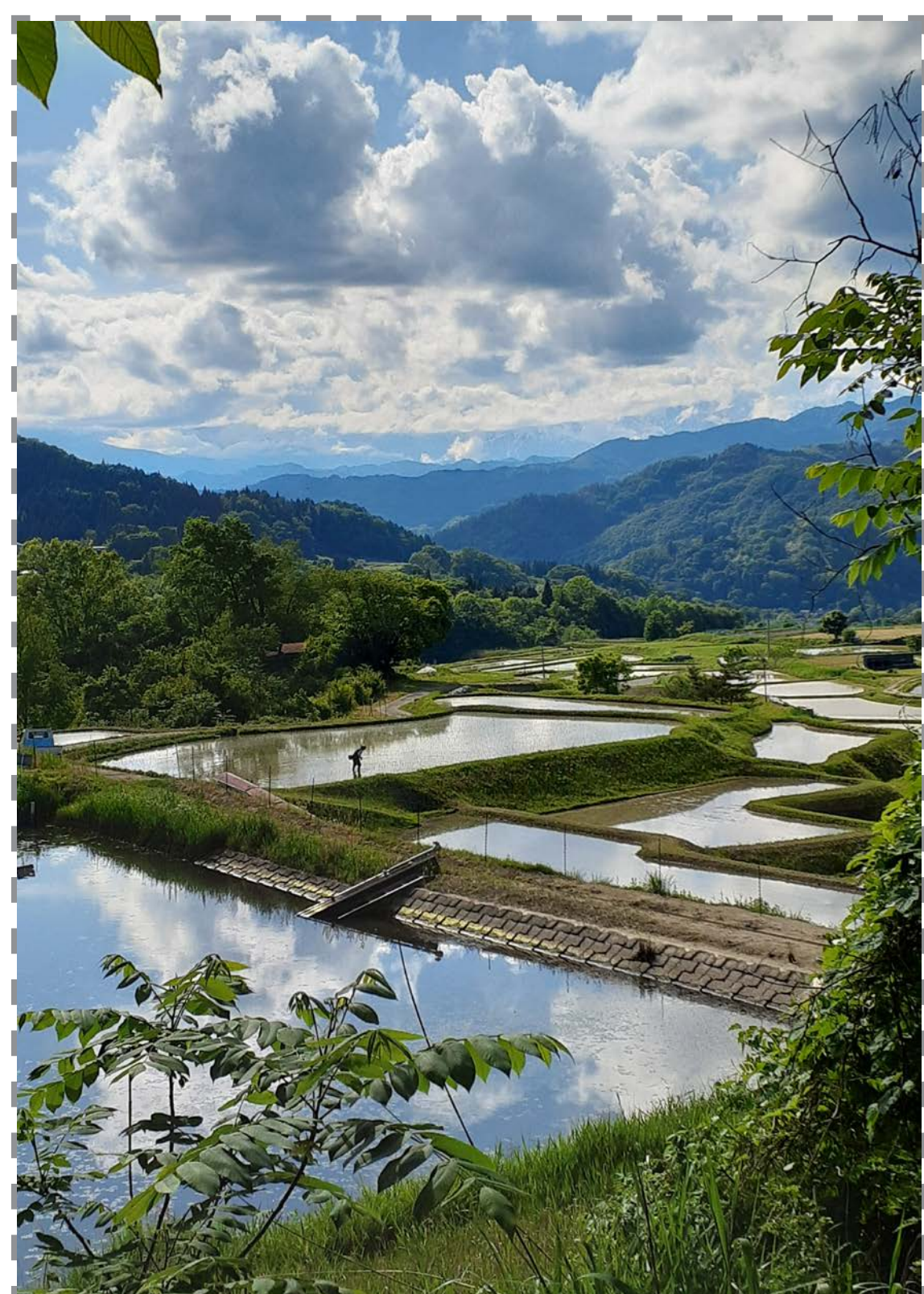
114 回（2016 年度卒） 芦田 星

所属：認定 NPO 法人生態工房

長野駅から車で 30 分、なだらかな茶臼山西麓に位置する、棚田と林檎園が広がる美しい里、信里（のぶさと）地区で 2017 年から水田耕作に取り組んでいる。

放棄水田の解消と生物多様性の保全を目的に、無農薬・化学肥料不使用で耕作を行っている。

当会の田んぼが位置する棚田の様子。北アルプスを望む美しい風景が広がる。日本の耕地面積の約 4 割を中山間地域の農地が占め、食糧生産上も重要である。



田んぼは、人の手が加わり保たれてきた“二次的自然”の一例だ。放っておくと多くの場所が藪や森林に遷移していく日本の気候風土で、湿地や草地といった多様な環境を維持し、多様な動植物に生息場を提供し続けてきた。

しかし、経営の難しさや従事者の高齢化により、各地の中山間地域で放棄水田の増加が進んでいる。



放棄されてヨシが茂り、荒れてしまった田んぼ。長く荒れた田んぼは再び耕作するにもお金や労力がかかる。生物多様性への影響は環境要因によって異なる。

お米作りあれこれ

地域の農家さんに指導・協力してもらいながら、種まき・育苗・田植え・草取り・収穫・はぜ掛け・脱穀といった一連の作業を行っている。機械を活用した省力化など様々な工夫に取り組みながら、無農薬・化学肥料不使用でも無理なく維持できるノウハウや、もっと放棄水田を解消するための方法を模索している。

信里地区は長野でも美味しいお米の産地として知られる。しかし減反政策以降、市場にはなかなか出回らない。

写真上：昔ながらの方法で田植え。機械も使うが、泥に手を入れる感覚も楽しい。

写真下：たわわに実った稲穂を刈り取り束にしていく。この後 2 週間ほど天日に干す。



「田んぼ」だけじゃない！周辺環境の保全

水田環境の維持には、田んぼの中だけでなく、畔の草刈りや水路の泥上げなども大事な仕事となる。こうして維持される畦畔やため池、水路は稲作に不可欠なだけでなく、生物に多様な生息場を提供してきた。

火入れ

組合共同で畦畔や休耕地の火入れも行う。定期的な管理により、草地を好む動植物の生息場として機能してきた。



ため池の管理・かいぼり

ため池の維持管理のために、農閑期に水を抜き、堆積した泥を排出したり、堤や水門を維持・点検するかいぼり。当会は東京都などで、都市公園の池を中心に市民参加によるかいぼりと水辺再生に取り組んできた。この技術や経験を、行政の支援が届きにくい中山間地域のため池の管理に注ぎ、絶滅危惧種を保全していく。

2021 年の冬、個人所有のため池で行ったかいぼりの様子。水を抜き、底に堆積した泥を掘り上げた。



信里の田んぼに暮らす生きものたち

水田を中心とした環境に、数多くの動植物が生息している。開発により湿地や草地などの環境が減少しているなかで、田んぼ周辺を最後のよりどころとしている生き物も少なくない。



トウキョウダルマガエル



アキアカネ



サンショウモ



チダケサシ

今秋収穫したお米は 11 月ごろから販売開始する予定です。美味しい新米を是非お求めください。発生した収益は水田生態系の保全に活用します。

※昨シーズンのお米はご好評につき完売しました。



▼ ご支援はコチラから

